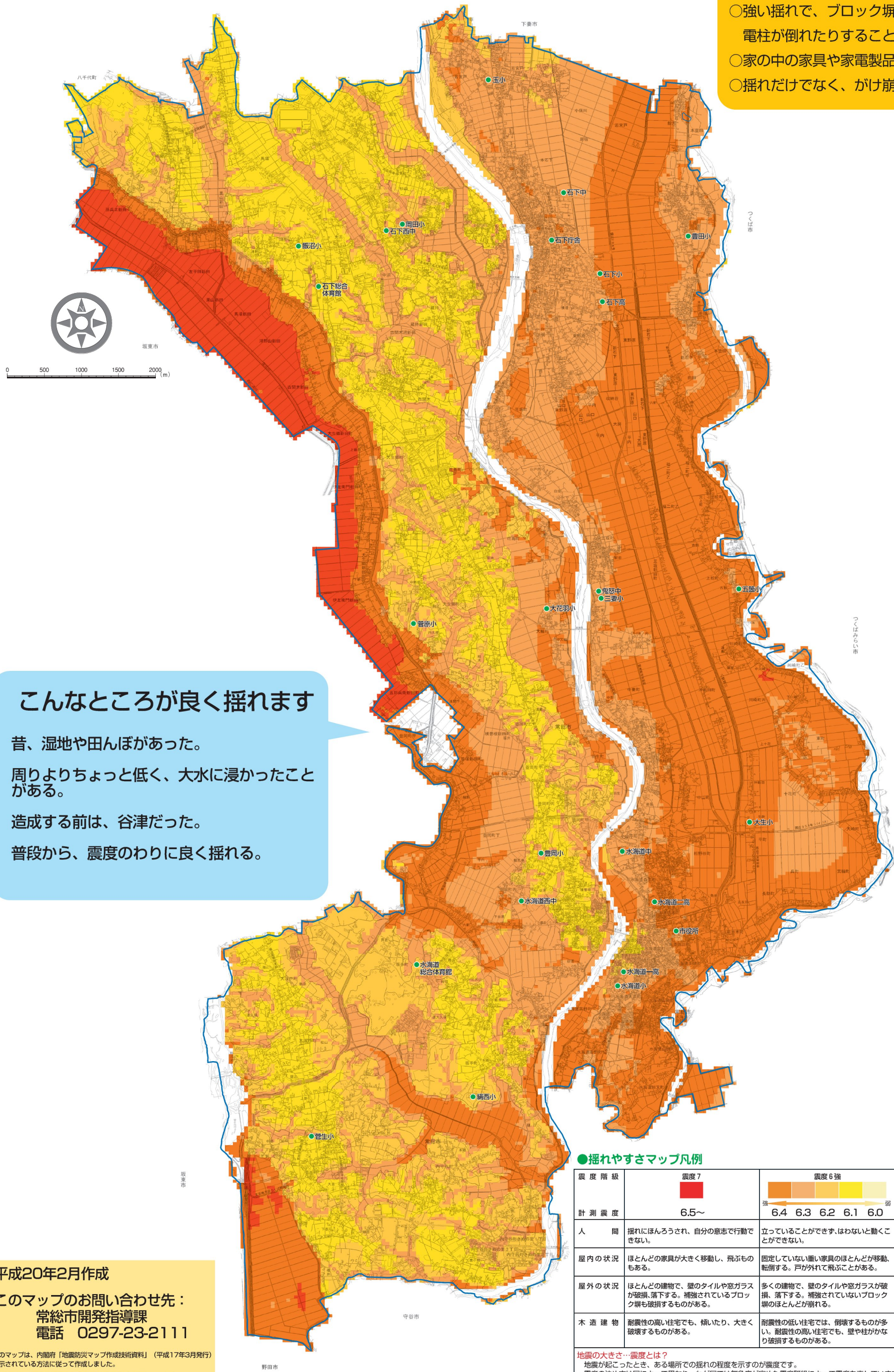


常総市揺れやすさマップ

揺れやすさマップは、常総市域に影響のある地震について、それぞれの震度分布を50メートルメッシュごと作成し、メッシュ内で考えられる最大の震度を表現したものです。

以下のことに気をつけながら
マップを見てみましょう

- 学校や職場、商店など、よく行くところ、よく通る道などの揺れやすさは？
- 強い揺れで、ブロック塀が壊れたり、電柱が倒れたりすることもあります。
- 家の中の家具や家電製品は倒れてこない？
- 揺れだけでなく、がけ崩れにも気をつけて！



こんなところが良く揺れます

昔、湿地や田んぼがあった。
周りよりちょっと低く、大水に浸かったことがある。
造成する前は、谷津だった。
普段から、震度のわりに良く揺れる。

●揺れやすさマップ凡例

震度階級	震度7	震度6強	震度6弱
計測震度	6.5～	6.4 6.3 6.2 6.1 6.0	5.9～5.5
人間	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	立っていることができます、はわないと動くことができない。	立っていることが困難になる。
屋内の状況	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
屋外の状況	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
木造建物	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。

地震の大きさ…震度とは？
地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を示すのが震度です。
震度の決め方は国によって異なり、わが国では気象庁が定めた震度階級によって震度を表しています。
震度は、身体に感じない地震の震度0から震度1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級に分けて発表します。

平成20年2月作成

このマップのお問い合わせ先：
常総市開発指導課
電話 0297-23-2111

このマップは、内閣府「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月発行）で示されている方法に従って作成しました。
背景図には「常総市地形図（平成20年作成）」を使用しています。